

## 「シニア・プレミアムフライデー」・・・夢物語（その2）

篠崎 辰夫

経済産業省が推奨する「プレミアムフライデー」が2月から始まったが、2.5%の企業でしか実施されていないという調査データもあり、ほとんどの人がその恩恵を享受できていないのが現状と思う。

そんな中、4月から「シニア・プレミアムフライデー」が導入され、高齢者に大好評のようだ。こちらは厚労省の企画。お役所が我々シニア層に、**粹な「忖度」**をしてくれた。

目的は、シニア層の消費促進と、健康促進に伴う医療費の大幅減少。高騰し続ける高齢者の医療費をなんとか押さえようとする、厚労省の苦肉の策といえる。

お役所の企画としては、なんとも前向きな、夢のある制度。これまで保険料でより多く徴収して改善しようとする後ろ向きの制度を反省しての企画と考えたい。

その内容は

1. まず「後期高齢者制度」が「**シニア・プレミアム制度**」(SP制度)に名称変更された。各自のマイナンバーカードも「SPカード」となり、各種機能が付加されているいろいろなサービスが受けられるようになった。
2. **毎月第一金曜日を「シニア・プレミアムフライデー」として**、その日に様々な企画とサービスが実施される。

(1) 買い物や移動、娯楽に伴う料金の無料化やポイントアップの実施。

- ① 鉄道、バス、地下鉄等の当日無料。 ② 映画館やカラオケ店等も当日無料。
- ③ 各地の日帰り温泉施設の当日無料。 ④ 各地の美術館、博物館等の当日無料。
- ⑤ スーパー等のポイント制度導入店舗では、当日ポイント10倍。

いずれも、「SPカード」を提示するだけでOK。

(2) 各地の公民館で「ふれあい歌声くらぶ」の実施

昔の「うたごえ喫茶」の公民館版。地域住民参加で歌う会。市の高齢者支援活動の一環として、公民館の公式行事に位置づけられ、毎月シニア・プレミアムフライデーに実施される。みんなで大きな声を出して歌うこと健康効果は大きい。

バックの伴奏は、主に各地域のボランティアがやっているが、なかには参加の高齢者グループ自らがやっているところもある。そこには参加者全員を結びつける素晴らしいコミュニケーションの場ができる。「歌の持つ力」の偉大さを実感する。

最初の「シニア・プレミアムフライデー」は、お花見と重なってどこも大盛況だったようで、これでシニア層が元気になれば、その経済効果ははかり知れない。

これが本来の「忖度」。こういう忖度をして実現していくのが、政治家、官僚の仕事。今の森友学園問題で言われているのは「忖度」ではなく、「**不忖度**」と言いたい。

・・・日本を元気にするのは「シニアの力」です。

---

勝手な夢物語ですが、ダメでしょうか。まあダメでしょうねえ。でも何とかして欲しい。